

教師に求められる『実技力』に関する考察

－「学習課題」の設定に関する工夫－

小竹光夫*

(平成7年12月8日受理)

1. はじめに

「書写」における学習は、手本という「学習課題」を中心に据えた学習形態になる場合が多い。他の教科目においても、問題（課題）解決学習において「学習課題」が設定されるが、「書写」における手本とは、かなりの面で異なりを見せるものであろう。

このように設定・提示される「書写」の手本は、その規範性の高さから、時として学習者にとっての規制・束縛と理解されてしまい、学習自体が萎縮してしまう場合が多い。高等学校芸術科書道の学習開始時に実施される「学習実態調査」において、中学校での国語科書写の学習が、

- ・手本の真似ばかりで興味が湧かなかった。
- ・規制されるだけだった。
- ・自由がなく退屈した。

と述べられるのも、このような「学習課題」である手本の側面がもたらした結果であろう。

本論においては、「書写」における「学習課題」の問題点を明らかにし、学習者の興味・関心を高める「学習課題」の設定に向けた工夫を、継続的に論及を続けている「教師に求められる『実技力』」という視点から論じようと考えている。

2. 手本という「学習課題」における規範性

「国際化」という言葉が、現代人の合言葉のように口にされる昨今である。しかし、厳密に「国際化」を考えた場合、この現象は現代社会に特徴的に生じている現象ではない。歴史を溯れば、遣隋使や遣唐使を介して行なわれた中国との交流が、我が国における第1次国際化であったと言っても過言ではあるまい。それ以来、何度かの「国際化」の波を乗り越えながら、我々が通常の日常表記に用いる「漢字仮名交じり文」は形成された。「国際言語力」という象徴的な表現で英語活用力が論じられる一方で、我が国の地理的な位置付けによって、閉鎖・開放という歴史的な反復を生じたにも関わらず、「日本語」は確実に保存され続けている。その「日本語」における「文字学習」を担っているものが、書写教育であり書道教育であろう。

さらに、この「国際化」に加えて、「情報化」という

言葉が口にされる。現代のような情報機器以前の文字に関わる大きな「情報化」は、印刷術の発明であろう。人間が手書きし、書写していた情報記号「文字」は、この時点で、大きく変化を求められた。

「活字」という形態での字形・字体の固定化が生じ、その固定化は書式をも変化させ始める。昭和50年代中頃に、社会現象のように登場した「マンガ字」・「丸字」と称される変形した文字群、さらにはタレントの宮沢リエの手書き文字に端を発したと伝えられる「長形ヘタウマ文字」と呼ばれる文字群は、伝統的な日本の文字の字形・字体に慣れ親しんだ人々を震撼させた。それらの現象を、短絡的に「特殊な書き方」という問題に終着させず社会現象としてとらえた立場は、『変体少女文字の研究』（山根一真著 講談社）や『サブカルチャー神話解体』（宮台真司・石原英樹・大塚明子著 パルコ出版）という優れた文化論を生んだ。これらを通じて繰り返し述べられるのは、活字の登場によって字形・字体が固定化された、という幻想の大きな誤りであろう。

確かに活字の登場により、文字は方形の枠の中に閉じ込められ、静止した。しかし、それはあくまでも瞬間文字提示という場面、印字という場面、印刷という場面に限定され、手書きという日常書写の場には適合しない。その特徴的事例が、タイプライターの導入に伴う「事務能率の効率化」によってもたらされた、「公用文書式の統一」であろう。文字の字形・字体が固定化されたとの幻想は、平然と縦書き文化の中で形成された文字を横組みに変更し、書式として規定した。この公用文書式の統一が、一般社会の生活や書写に影響を与えることは当然である。普及した日本語の横書き書式は、20数年後、前述の「マンガ字」・「丸字」と称される変形した文字群を生じさせた。

Handwritten examples of 'Manga-style' and 'Ball-style' characters, showing distorted and rounded forms of standard Japanese characters.

*兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター（語学教育分野）

画一的に見られる「解けた螺旋運動」と「右上から左下への画の喪失」について、この「情報化」という動向は、なんらの解答も示していない。そして、また新たな「情報化」である。このような流れの中にあっても、文字は確実に書かれ、確実に使用され続けている。

日本語に使用される文字の生成過程には、人間の右手による書字と縦書きという条件が、深く関わりをもっている。そのため、文字の横画や螺旋運動は、緩やかな右上がりの状態で書かれるのが通常である。左手による書字を行なう児童・生徒に学習障害が生じるのは、多くはこの要因によるものである。

これに対し、印刷文字として使用される活字には、この右上がりの状態は表現されない。明朝体活字には僅かに見られる用・運筆の残痕も、昨今流通しているゴシック体活字では完全に消失している。つまり、形態的には情報記号として活用できるものの、人間の手書きを補助するための再現資料としては効果を示さない。

ここまでの考察を総合すると、活字を手本とするわけではなく、さらに右手による書字を行なう児童・生徒に学習障害が生じる原因は見当たらない。しかし、学習者が報じるのは規制・束縛であり、規範性である。

先に右手による書字においては、「文字の横画や螺旋運動は、緩やかな右上がりの状態で書かれるのが通常である」と述べた。手本として提示される「学習課題」においても、この傾向は基本的には継承されている。しかし、前者が人間の体機能としての運動性、本能としての動きであるのに対し、後者はそれらを押さえ込もうとする統御の形をとっている。この統御が、学習者への制約となり、規制・束縛を感じさせている。

「言語は、人間の理性の産物である」と称される。ことに後発的な文字言語については、その傾向が強い。手の動き、感情のままに引かれた線が、角度・長さ・方向を変えながら点画として位置付けられ、文字の骨格が現れる。その形へと統御する力が、文字を書くことには必須の要件であり、「文字を書くこと」の意義の一つもそこにある。これは点画が集合して構成される文字、さらにはそれらを配置・配列した語・文においても同様である。つまり、「文字を書くこと」とは、「自己統御力」を育成することからスタートしているといえよう。

歴史的に考えれば、この書写・書道教育における「自己統御力」の育成が、誤って利用されたことを否定できない。それは、精神性や修養性という躰の面での過剰な指導であり、時として「人間の生き方」にまで及ぼうとするものであった。この学習内容と躰の分化は、当然、学習指導において配慮されるべきことであったが、時代的・社会的背景を反映しながら、書写・書道教育自体が見失ってしまった部分でもある。いまだに教育現場に蔓延する、「文字、とりわけ毛筆による学習は、情操のた

め」との風潮も、この誤解・過失から生じているものであろう。悪しき反復によって、書写教育は言語教育との立場を喪失し、躰等に関わる情操教育の領域に迷い込むこととなる。

文字の生成、意義、活用という場面において、「自己統御力」を基盤とした規範性が、否定される要因は見当たらない。問題となるのは、この「自己統御力」の拡大解釈と、それに伴う誤った規範性の強制という実態である。書写教育にあたる一人一人が、言語教育の一環としての文字指導という立場に立ち、指導内容・方法への改善の試みを続けなければなるまい。

3. 「学習課題」の設定と指導上の問題点

書写における「学習課題」、つまり手本は、文字を書写する上での要素を確実に含んでいるものでなければならない。そして、その要素が明確で、学習者が理解しやすい形で配置されていることが望ましい。しかし、課題としての価値があるということが、学習者の興味・関心を高めるものであるとの保障はない。ここに価値ある課題を設定することの必要性と、その課題の価値を理解させ、定着させるための学習指導上の工夫が求められるのである。

一般的に、書写教科書に掲載される手本へのマイナス面の評価は、

①要素は理解できるが、書きにくい。

②書きやすいが、書く意欲が湧かない。

という形で二分される。①の立場で考えると、現行C社の教科書に掲載される「校内放送」(中1/毛筆/楷書/半紙4字)や、E社の「花の楽園」(中1/毛筆/楷書/半紙4字)などが、それに該当するものであろう。例えば、

校内放送…左右の払いの扱いに焦点を絞った好語句であり、生徒の学校生活との関わりも深い。しかし、焦点化された要素である左払いは9回、右払いは3回、右払いにあたる部分が点となるものは3回という状態で、1課題中に登場してくるのである。集中的な学習とはいっても、複雑な筆使いである払いが複数回登場すれば、困難が生じるのは必至である。さらに、半紙の左半分には「放送」を配置するため、右払いが萎縮することも必然であろう。そうすると、結果的には左右の払いの習得以上に重視されてくるのは、半紙への配置・配列という他の学習要素である。

という状況が予測されるのである。

また②に該当するものは、現行A社の教科書に掲載される「汽笛」(中1/毛筆/行書/半紙2字)や、E社

の「みやこどり」(中1/毛筆/仮名/半紙5字)、G社の「つりがねそう」(中1/毛筆/仮名/半紙6字)などが、それに該当するものであろう。例えば、

汽笛…横画の連続、斜画から横画への連続という要素は理解でき、また形態的にも書きやすいが、「汽笛」という語句自体に何等のドラマ性もない。まして、電車に新幹線の時代に、汽車を予想させる「汽笛」とは、歴史的教材との感が大きい。

みやこどり…仮名の基本的用筆はほぼ含まれている。さらに、半紙への配置・配列という面でも「み」の横に「ど」、「や」の横に「り」を配しており、書き易さには長じた課題であろう。しかし、題材語句が余りに特殊で、辞書でも使用しない限り、意味さえ把握することができない。結局は要素優先で、該当文字を組み合わせて創出した語句でしかあるまい。

別に、課題語句自体が成熟していないE社の「霜降りた道」(中1/毛筆/行書/半紙5字)や「自然探訪」(中1/毛筆/行書/半紙4字)、H社の「永世」(中1/毛筆/楷書/半紙2字)などもあるが、ここでは深く論及をしない。

以上のように、教科書掲載の手本を「学習課題」と考えた場合、学習者の興味・関心、あるいは意欲という点での不備は否めない。そのみに限定した場合はなおさらであろう。この不備を解決するために、指導者自身が学習者の実態に即した「学習課題」を設定する方法が考えられる。具体的には、「学校行事に関連した課題語句を作成しよう」や「自分たちの『書き初め』の課題語句を考えよう」などが、その一試行として考えられる。

(1)学校行事に関連した課題語句を作成しよう

学校行事と関連した学習課題は、学習者に密接で関心と呼ぶものであり、また生活化の上でも重要であろう。しかし、考えられる課題語句が、書写学習の教材として価値をもつかどうかは、また別の判断が必要となる。以下に掲げるものは、平成5年度の学部2年生によって抽出・作成された課題語句集である。語句の末尾に付記してある員数は、その語句を提示した学生の数である。

(回答総数68)

順位	課題語句	員数
第1位	修学旅行	39
第2位	入学式	36
第3位	卒業式	36
第4位	遠足	34
第5位	球技大会	27
第6位	終業式	25

第7位	始業式	24
第8位	授業参観 (含 授業参観日、参観日)	18
第9位	健康診断 (含 身体測定 身体検査)	16
第10位	朝礼	13
第11位	社会見学 (含 貯工場見学)	12
第13位	生徒総会	
	写生大会	11
	試験	
第15位	七夕祭 (含 七夕会 七夕集会)	9
第16位	防災訓練	8
	送別会	
	清掃	
第19位	宿泊研修	7
第20位	観賞会	6

以下、少数のものが多種提示される。その中で、代表的な学校行事として考えられるものを抜粋して掲げる。

臨海/体育大会/野外合宿/学園祭/自然学校
/文化発表会/芸術祭/学習発表会/音楽鑑賞会
/野外活動/論文発表会

学部2年生の段階では、学校行事という理解は極めて曖昧である。提示語句の中には「校歌」や「茶話会」、「集団下校」や「風紀検査」までもが含まれ、学校教育への理解の拡充が必要であると痛感した次第である。

しかし、「どんな学校行事を創造するか」と問いに対しては、

女子学生A

私が中学・高校の頃は、ほとんど全ての行事をやらされていた、と思います。特に、文化祭・体育祭ともなれば、教師側としても生徒に「ハメをはずしてほしくない」という考え方を持っていたので、わけのわからない規則ばかりでした。だから、自分が教師の立場だったら、もっと生徒に自由に発想させたいです。

男子学生M

私が小学校の時、運動会の行進の練習では同じトラックをぐるぐると何周も歩かされたし、音楽会の時は、暗くなるまで残らされて練習しました。卒業式の練習も、返事ばかり何度も言

わされました。だから私は、何か行事があるたびにいやでした。今の小学校や中学校がどんなのかはしらないけれど、同じことがくり返されていたら残念です。

女子学生N

生徒側になるべく運営させるようにして、教師側はそれをサポートするぐらいで、一緒になって楽しめたらいいと思う。生徒の考えは柔軟だから、教師があれこれすすめるよりもっと楽しい行事ができるのではないかと思う。大きな行事は難しいかもしれないので、一か月に一回ぐらいの小行事から運営させればいいのではないか。

女子学生S

私は中・高通して、生徒たちでつくる文化祭を経験できて、とてもよい思い出になっている。だから、私が望むのは、教師が一方的に押しつけるのではなく、生徒たちが自主的に考え、行い、教師はそれを助言する程度の存在であるというやり方だ。実際、自分がやってきて、準備は大変だが、いろいろなアイデアがあり、やり終えた時の感動は、とても大きなものだ。教師が与えるものだと、どうしてもやらされているという気持ちをもってしまいがちだと思う。

女子学生T

- ・生徒が主体になってできるもの。
- ・高校の時の修学旅行は東京方面だったが、これも生徒のアンケートによって決めたもので、服装は制服だったものを、生徒と話し合っけて私服も可となった。生徒の意見も入ることのできるものであれば、いろいろな意見がでておもしろいものができると思う。

と、学校行事への生徒の主体的な関わりの必要性が繰り返し述べられる。それらが「学校行事に関連した課題語句」の背景にあると仮定した場合、前掲の語句の中で手本として活用できるものは、

修学旅行…基本点画・用筆の大部分が含まれ、語としても好ましい。ただし、半紙に4字書きとなると、上密下疎となるのが問題点として残る。

入学式／卒業式／始業式／終業式

…学校行事として代表的なものであり、各語句ごとに基本点画・用筆の大部分が含まれている。半紙に3字書きは異例であるので6字書きとなるが、「入学式卒業式」「始業式終業式」とともに2・5字目が画数が多く不調和となりやすい。同字が繰り返されるので、行書題材として扱

うのが適切であろう。

遠足…上下の画数の疎密に注意が必要であるが、「によう」の学習に適する。字形のとり方も、他に应用できる要素が数多くある。球技大会…「校内放送」同様の問題点はあるが、左右の払いを学習するための課題語句としては利用できよう。払いの変化を考えれば、行書題材として扱うのが適切であろう。

社会見学…基本点画・用筆の大部分が含まれ、語としても好ましい。中学校1年の楷書学習のまとめとして、半紙4字書きで扱うことができよう。

写生大会…中学校1年の楷書学習のまとめとして扱うことができるが、縦画が少ないのが問題点となる。

七夕祭…「祭」では、画数の不調和が目立ち過ぎる。漢字仮名交じり文の題材として「七夕まつり」として半紙5字書きで扱うことが望ましい。

送別会…半紙3字書きは異例であるので、「送別の会」とするのが望ましい。中学校1・2年生の学習のまとめとして扱うことができよう。

体育大会…基本点画・用筆の大部分が含まれ、語としても好ましい。中学校1年の楷書学習のまとめとして、半紙4字書きで扱うことができよう。

野外活動…基本点画・用筆の大部分が含まれ、語としても好ましい。さらに、全てが左右の組み立てからなる漢字なので、字形の整え方として扱うことができる。

文化発表会／学習発表会／音楽鑑賞会

…半紙5字書きとして扱うか、「会」を除外して4字書きとするか意見が分かれる。左右の払いが他の文字で学習できることを考えれば、学習を容易にするために「文化発表」「学習発表」の形とするのが望ましい。「音楽鑑賞」は画数の疎密が極端なので、「音楽発表」と変更して、上下の組み立てという字形の整え方で扱うのが望ましい。

などであろう。

簡単な試みではあるが、学習者に近い立場の学部2年生ならではの課題語句も提出され、興味深い2時間の実習・考察であった。問題とされる修養的な側面も、この学習課題においては皆無であった。

(2)自分たちの「書き初め」の課題語句を考えよう

伝統的な行事である「書き初め」は、時代や年代を越えて、現在も書写学習の中心的な単元として位置付けられている。当然、1月2日に実施するなどの形式上の部分は説明に止められ、多くは冬休みの課題として扱われる。前掲の(1)は学校行事との関連で考えられたが、この「書き初め」は日本の伝統行事と関連するものであろう。

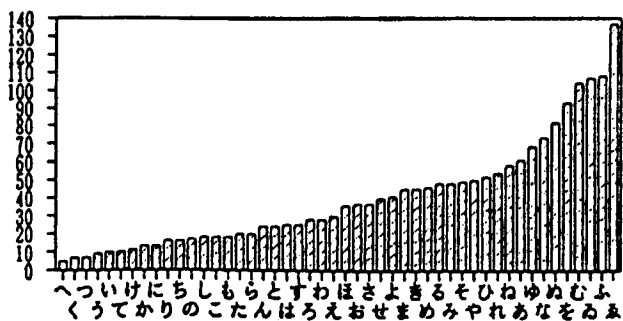
このような日本の伝統行事との関連、それも年頭の決意を示す語句を考えると、内容は修養的・訓辞的なものになりがちである。現行教科書に掲載される課題語句についても、中学校1年が楷書、中学校2・3年が行書という別はあるものの、総じて旧態依然とした古めかしい語句が多い。これまでも、何度か「書き初めの課題語句を作成する」という授業実践を行ったが、中学生・高校生の別なく、あるいは大学生・大学院生の別なく、「門出の春」や「不断の精進」・「不動の信念」という類似した語句が提示されるだけであった。

日本語においては、通常、漢字が主要な概念を指示すると考えられる。文章構成においても、漢字数や漢語的表現が増加すれば、印象・内容が難解なものとなりやすい。内容も修養的・訓示的なものへと傾斜する。そこで、本年度は学部「書写・書道講義」の「ひらかなの学習」の一環として、「書き初め」の課題語句を作成させることとした。

- 学習の展開 ①ひらかな各字の特徴把握
②50音の試書
③難易度の高いものの個別練習

平仮名難易度順の配列

(教師に求められる『実技力』Ⅳより)



- ④特徴の再確認と学習要素の理解
⑤ひらかなの活用
・「言葉」を考える。
・「書き初め」を考える。

表音文字であるひらがなは、発音と表記が比例するので、組み合わせによって規則的に語句作成が行われる。網羅的に作成したものの中から、課題として適切なものを2～7字の範囲で選択させることとした。なお、作成

時間を確保するため、学籍番号が奇数の学生は3・5・7字の語句、学籍番号が偶数の学生は2・4・6字の語句を担当した。以下、複数回答(5名以上)の語句を例示する。語句末尾の()内は、例示した学生数である。

- 2字句…えま(5)・こま(19)・たこ(6)
もち(8)
3字句…あさひ(5)・おせち(13)
おもち(8)・かるた(8)
きもの(6)・ぞうに(10)
4字句…おぞうに(8)・おみくじ(8)
かどまつ(12)・がんとん(6)
しめなわ(6)・たこあげ(13)
はごいた(6)・はつゆめ(6)
はねつき(14)・もちつき(9)
5字句…おとしだま(22)・かがみもち(5)
しょうがつ(10)・はつひので(10)
はつもうで(23)・ふくわらい(9)
6字句…おしょうがつ(8)

多数を占めた語句は、ひらかなの学習要素や難易度に配慮されたものではあるが、「あさひ」・「きもの」を除いては、観念的な正月風景の「ひらかな化」に過ぎないのは明らかである。文章化していないために、修養的・訓示的な部分は除去されているが、それでも表現は古風である。なお、4字句「がんとん」は、1月2日を書き初めとすれば時間的に不適である。

課題語句としての新しさは、このような多数の中ではなく、少数の意見の中に存在している。それらを今後、学習課題としての手本として登場させていく努力が必要となろう。例えば、

- 2字句…あさ・うみ・まり
3字句…あさひ・かざり・きぼう・きもの
ことし・ひかり・みらい・よあけ
4字句…こなゆき・しんねん
5字句…あたらしい・はつだより・ふきのとう
もくひょう・ゆきだるま

などが、新しい傾向に該当するものであろう。

(3)「夏休みの宿題」を考える

本学習「『夏休みの宿題』を考える」は、平成6年度より学部「書写・書道講義」の最終題材として設定し、レポート形式で取り組んでいるものである。「新任先生 夏休みの宿題を考える」と題した平成6年度は、小学校1年～中学校3年までを対象とした50の実践案が作成された。講義の中では、指導者側が書写の宿題として可能性が感じられる5点について講評を行い、その後、各自の実践案の検討を試みた。講評を加えた5点の題目と内容は、次に掲げる通りである。

小6「身の回りの文字を調べよう」藤井陽子

町の中で見かける看板や雑誌のタイトル等には、いろいろな文字が使われている。それらを調べて、まねをして書いて、大きな紙に何種類もはり、字の書体について学ぶ。

小6「君も松尾芭蕉になろう！」喜多利江

君の夏休みを絵葉書にしてみよう。家族で遊びに行ったこと、地区の行事に参加したこと、一生懸命に頑張ったこと、何でもいいから先生に教えて下さい。方法は簡単です。一枚の葉書にイラストをかき、それに一句を加えるのです。いつもは名前しか書かない細筆を有効に使えるかな？ 二学期の授業では宛名も書いて、実際に郵便局に出そうね。

中1「字を書けるものを作ろう」木村睦美

自分の身の回りにあるもので、字の書けるものを作る。筆状のもの、ペン状、鉛筆状なんでもよい。それで書いた作品も制作する。その長所、短所を考える。

小6「自分の名前でパズルを作ろう」堀田純子

段ボールなどの厚い紙に自分の名前を墨でかかせてくる。サイズは決めておいた方がよい。それをパネルのように切って、最初の時間に友達同士でパズルをして遊ぶ。誰の名前が出てくるかわからないから楽しいと思う。

小4「自分だけの新聞を作ろう！」河本敦子

夏休みに体験したことや日常生活の中でみんなに知らせたいことなど、生徒自身が主人公になって自分だけの新聞を作る。ねらい「自分の文章をていねいに書いて、うまく一枚の紙に収められるようにする」

学生たちの柔軟な思考により、様々な新しい試みが感じられたものの、提出の方法が曖昧であったために、具体性という部分では深めることができなかった。事実、アイデアとしては優れるものの、実践や評価は不可能だと感じられるものが相当数あった。平成7年度は、前年度の授業実践の反省の上に立ち、より具体的な案を作成させることを意図し、段階を追った展開を試みた。

①題目の決定（巻末提出用紙を参照）

②素案についての相互評価

③実践案の具体化（巻末プリント資料参照）

①での提出用紙に記載された宿題の題目と、対象学年は次の通りである。

小学校2年

- ・カタカナクロスワードパズルを作ろう
- ・夏休みの思い出を紙芝居にしよう

小学校3年

- ・私の家のまわりの漢字地図
- ・自分の名前をもとに短文（詩）を作ろう！

- ・いろいろなもので字を書いてみよう
- ・夏休みに見つけた生きものに、ネームをつけていばろう
- ・四季の変化を漢字で表そう
- ・マンガから漢字を学ぼう
- ・冒険者になろう！
- ・手紙を出そう！
- ・いくつできるかな？
- ・近所のたんけんだ！

小学校4年

- ・自分の名前はどこから来たの？ 調べてみよう
- ・ぼく・わたしの名前探し
- ・ローマ字で遊ぼう！
- ・漢字のかくれんぼ
- ・4年3組 ぼくも私も社長、店長!!
- ・紙しばいを作ろう

小学校5年

- ・田舎へいこう
- ・漢字を絵で表現してみよう
- ・あの人に手紙を書こう
- ・漢字の王様はだれだろう
- ・漢字で絵を描こう
- ・違う漢字で名前を書こう
- ・物語を作ろう！
- ・漢字で天体観測
- ・自分の広告を作ろうっ！

小学校6年

- ・町でよく見る看板を自分で作ろう
- ・漢字をデザインしてみよう
- ・自分の名前の意味を考えよう！
- ・自分の好きなマンガの主人公で話を書こう
- ・漢字クロスワードパズルを作ろう
- ・夏休みの自分の体験 一番ニュース
- ・漢字を使った紙芝居を作ろう！
- ・絵を見て物語をつくろう
- ・自分の名前に使われている文字（漢字）でお話をしよう
- ・私の秘密を教えてあげる 一暗号編一

中学校1年

- ・ひとめでわかる漢字をつくろう
- ・様々な字体を見つけよう
- ・当て字をつくろう

中学校2年

- ・自分の好きな歌の歌詞をみつめよう
- ・絵文字カルタを作ろう
- ・作家になってみよう!!
- ・自分のネームプレートを作ろう！
- ・身の回りから文字の探検をしよう

・万葉仮名で絵日記だ

中学校3年

・素敵な言葉 探してみない？

・先生に暑中見舞いを出そう！

「文字に関わる宿題」との条件をつけていたが、本年度は漢字に関するものが多数を占めた。学生たち自身、漢字のもつ表意性や表語性への関心は高いが、その中のクイズ・パズル的な要素が表面化したものと考えられる。興味・関心を高めるとの立場からは面白いが、所詮は「知識の切り売り」的な題材であり、学習としての継続性や深まりは求められまい。現実の教室での実践、展開を考えると、常に刺激を与え続けねばならないこれらの題材は、教材研究の繁雑さからも新任の教師には苦しい。

第1次試案については、

- ①興味を感じさせる題名であるか？
- ②内容が配当学年に適合しているか？
- ③内容的に問題を含んでいないか？
- ④方法は分かりやすく説明できるか？
- ⑤評価は容易に、適切に行えるか？

を視点として与え、自己・相互評価によって確認を行った。特に方法以前の問題として、③については周到な確認が必要である。若い教師の場合、ともすれば自分の判断・立場のみが優先し、生徒の家庭環境や状況への配慮に欠けることも多い。「自分の名前について両親に聞いてみよう」や、「お父さんの話を聞いてくる」「お母さんの意見はどうだろう」などが、その典型的なものである。その意味からも、教師の「実技力」は、授業実践力に止まらない広範なものを包含して存在している。

本年度は、最初に提出された題目に相当の偏りはあったが、最終の「宿題を説明するプリント」で多様化が図られ、結果的には成果のあるものになったといえよう。プリント作成という部分については、学部2年生とは思えない「実技力」が発揮され、かなり完成度の高いものが仕上がった。

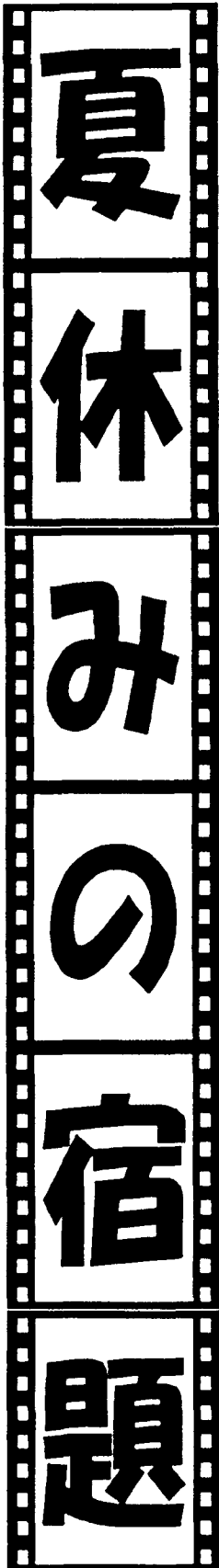
4. おわりに

手本という学習課題が中心となる書写では、冒頭で述べた規範性から派生する弊害と合わせ、教師主導の学習形態になることが多い。学習課題を解決するために、教師と生徒あるいは生徒間の積極的な対話が求められる場面でも、一方的な説明・解説が展開され、生徒は消極的な「作業者」としての位置付けしか与えられない。このような実態を打破するためにも、「学習課題」の工夫と精選、さらには教師の指導力の向上が切実に求められているのである。

小学校から中学校へと至る国語科書写の流れは、今、ようやく一本の系統を見つけ歩み出そうとしている。書写と書道との混乱、精神性や修養性に振り回された過去

の歴史など、様々な問題を背負ってのスタートであった。しかし、それらを断ち切りながら、「書写」が言語教育の一環として自立していくためには、この手本という学習課題の検討を除外することはできまい。遅れがちである学習指導の近代化も、その取り組みの後に見えてくるものであろう。

勉強嫌いの子も夢中になる！



夏休みの宿題のテーマ

対象学年

・小学校 ・中学校 () 年

形 式

・発表会 ・提出物 ・両方 ・その他 ()

内 容

.....
.....
.....
.....
.....

評 価

考案者 学籍番号 () 学生氏名 ()

▶ 漢字クロスワードパズルを作ろう! ◀

楽しい楽しい夏休みがやって来ました。あそびの計画がもうたくさんという人もいるかもしれませんが、その合間をぬって、ちょっと頭をひねってクロスワードパズルを作ってみましょう。

クロスワードをずるのは好きだけど、作るのは難しそうと思うかもしれませんが、夏休みだからこそ、ちょっと頭を使って頑張ってみて下さい。下に例として一問作ってみたので、まずは、これに挑戦してから考えると、頭がやわらかくなるかも……(全部、二字熟語だよ!)



1		2	
3	4	5	6
7		8	9
10	11	12	

〈たてのカギ〉

1. ○○ ↔ 卒業
2. 大きいものと小さいもの
4. 教室のある建物
6. 内容や意味などをわかりやすく述べる事
7. 家でする勉強
- 今やっているのは「夏休みの○○」
9. あさってのこと
○○日

〈よこのカギ〉

1. ○○ ↔ 退場
2. ○○ ↔ 子供
3. みんなが勉強する所
5. 物語や文章のこと
「○○家になりたい」
7. 旅先などで宿泊する所
「国民○○」「寄○○」
8. 目が見えなくなること
10. 書物や文につける表題
11. 決まった名。名字。
12. まえとうしろ



☆ 国語辞典や漢和辞典も使おう!



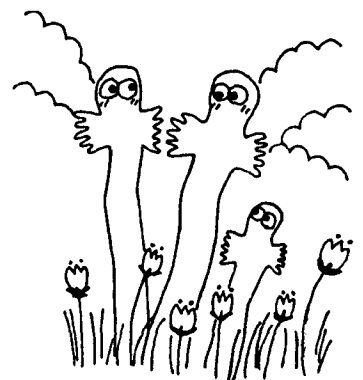
どうでしたか? できましたか? こんな問題を君も作ってみて下さい。ちょっと難しいなという時は、友達どおしで相談したり協力しあったりして作ってもいいですよ。

- 〈やり方〉
- ・別に配布した4マス×4マスのプリントを使うこと。
 - ・全て二字熟語にすること。
 - ・たてのカギと横のカギがうまく交わるようによく考えて作ること。(国語辞典や漢和辞典を使おう。)
 - ・今までに習った漢字や熟語を使うこと。



〈提出日〉。9月1日の始業式の日を集めます。

みんなの問題を集めて、朝の会や終わりの会でプリントにして少しずっやっていきたいと思っています。みんなをなやませるようなものすごいおもしろいパズルを作って下さいね。「おもしろクロスワードパズル、ナンバー5」なんかもやってみようと思っていますので、頑張ってくださいね。期待しています。





夏休みの宿題



自分の名前はどこから来たの？調べてみよう！

みんなには、一人ひとりすてきな名前がありますね。
友だちに「〇〇君」「〇〇ちゃん」と呼ばれるでしょう？ そんなとき「ぼくの名前ってだれが付けたの？」とか、「わたしの名前にはどんな意味があるのかなあ？」なんてふと思った事ありませんか。おそらくみんなの中には、お家の入にたずねたことがある人もいますでしょう。

この夏休みに、お父さんやお母さんにたずねてみるのもよし、いなかのおじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみるのもいいです。自分の名前がどこから来たのか調べてみましょう。

調べる事

- だれが自分の名前をつけてくれたのか。
- 名前にどんな意味やねがいがこめられているのか。
- その他あだ名(ニックネーム)や兄弟・両親の名前
- について調べてみるのもいいでしょう。

🌸 以上のことを家族の人に聞いて、みんなの前で発表できるようにノートにまとめておきましょう。

発表会

9月6日 2・3時開め

※ 自分の発表、みんなの発表を聞いた後、感想文を書いてもらいます。



漢字を使って、紙しばいを作ろう!

漢字には、ものの形を型どって作られたものがたくさんあります。それらを象形文字といいますが、今回は、それ以外の文字も使って、いろいろなアイデアを生かしながら、絵を描いてみましょう。

【宿題のやり方】

1. 短い物語を考えよう。

紙しばいの内容となる話を自分で考えましょう。

2. 物語を4場面に分けよう。

4枚の画用紙から成り立つ紙しばいを作ります。考えた物語を区切りやすい部分で、4場面に分けましょう。

3. 漢字を使って絵を描こう。

画用紙の表に、話に合った絵を描きましょう。あらかじめ、4場面の絵を決めておいて、それに漢字を盛り込んでいきましょう。

4. 文章を考えよう。

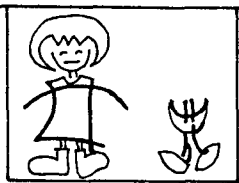
2. で考えた物語を場面ごとに、簡単な文章にしましょう。それを画用紙の裏に書きましょう。

5. できあがり。

読んでみましょう。誰かにみてもらいましょう。

【例】 これは、とても簡単な例です。

①



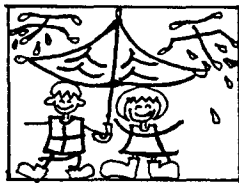
あるところに、1人の女の子がいました。女の子には友達がいませんでした。「誰か友達になってくれる子はいないかな。」

②



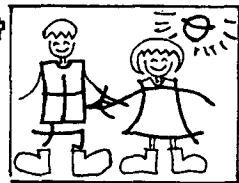
そこへ、急に雨が降ってきました。女の子は、かさをもちません。「モー。ついでがないな。」

③



前から、かさをさした男の子が歩いてきます。「傘者に入ぬ？」とてもやさしい男の子のおかげで女の子は、ぬれずに済みました。

④



雨もあがって、空も晴れてきました。女の子は男の子にいいました。「友達になろう!」女の子と男の子は友達になりました。

【提出日】 9月1日(金)

🌸 国語の時間に、みんなで発表しあい、紙しばい大会をしよう!